

政務調査研究視察 報告書

報告者：山崎憲伸

視 察 日	平成23年2月22日（火）
視 察 内 容	飯塚市「リハビリの森デイサービスセンター」について
視 察 者	柴田 泉、近藤隆志、中根勝美、永田 寛、山崎憲伸、築瀬 太

・ 飯塚市について

飯塚市（いづかし）は福岡県中部に位置する市です。2006年3月26日に潁田町・庄内町・穂波町・筑穂町と対等合併し、新市制による飯塚市となりました。筑豊地方で最大の人口（13万人）を擁し、筑豊の政治・経済の中心機能を持つ都市です。



明治以降、周辺一帯は筑豊炭田と呼ばれ発展し、飯塚市は筑豊地域の中心部となり、全国各地や外地から多くの炭坑労働者が移住し、人口が急増しました。

しかし、戦中戦後の乱掘と昭和30年代のエネルギー革命によって石炭産業は衰退し、炭鉱の閉山による急激な過疎化が進みました。

また2003年4月に「飯塚アジアIT特区」と呼ばれる経済特区の指定を受け、市内の九州工業大学と連携して先端産業の育成を図っており、IT関連産業や学生を中心に人口が増加してきています。

・ 「リハビリの森デイサービスセンター」について

高齢者が元気にリハビリに励んでいるデイサービスがあると聞き、福岡県飯塚市にある「リハビリの森デイサービスセンター」を視察いたしました。

「リハビリの森デイサービスセンター」は(株)良創夢（らそうむ）が運営しているデイサービス施設で、創始者の田中社長が病院で作業療法士として勤務しているときに、介護の必要な高齢者を紹介したいようなデイサービスが同市にないことから、自分で作ったという経緯をもった施設です。



社名の良創夢の由来は、「良い夢を創る」から来ており、「利用者と家族が生活に対する夢を創造し、その夢を実現するために支援ができる存在であり続けることで社会に貢献すること」という高い理念をかかげております。

建物は、食品配送センターを再利用しており決してきれいな状態ではありませんが、中に入ると多くのデイサービスに在りがちな、なんとなく沈んだ雰囲気ではなく、元気で華やいだ中にもリラックスした雰囲気が漂っていました。

特筆すべきことは、男性の利用者がとても多いということです。

多くのデイサービスは、利用者を集めて集団でリクレーションや軽い体操をしたり、中には童謡を歌うなど、幼稚園児がするようなことをするなどが中心で、男性が行きたがらないことが往々にしてあるようですが、このセンターでは、在宅での暮らしのサポートが出来るように、個々の症状や状態に合わせたメニューをつくり、自分のペースでそれぞれの自主性に任せて、スタッフがそれをサポートするという体制をとっており、ある人はリハビリマシーンで汗を流し、ある人は歩行訓練をしたり、階段の上り下りをしたり、またある人はイスで居眠りをしたり、中には花札やマーじゃんに興じる方たちもいて、みなさん生き生きしており、中には赤い華やかな服を着て、もくもくとリハビリマシーンでがんばっているおばあさんがいました。そのお顔はちゃんと化粧をし、髪もきれいに整えており、とてもきれいでしたので、何歳ですかとたずねるとなんと92歳でした。



もう一つ特筆すべきことがあります。

それは、この施設の中だけで通用する「ユーメ」という通貨の存在です。

リハビリマシーンや歩くこと、階段の上り下りなどリハビリに関することをすると、それぞれの作業ごとに決められた金額の「ユーメ」が支払われることです。お風呂に入るときのパンツの上げ下げまでも金額の設定がありました。

マッサージやカラオケ、パソコンなどの楽しみごとは「ユーメ」で使用料を払います。食事也是如此です。

「ユーメ」をかけて花札やマーじゃんを楽しんでいる方もおり、札を切ったり、牌をつもる手の力の入りようはとても要介護の高齢者とは思えませんでした。

また、この施設では年に一度、お祭りを催し、利用者の孫など家族も一緒に参加します。そこで行われる金魚すくいなどの出店やアトラクションの利用は「ユーメ」のみであることから、自分の孫に「ユーメ」を渡すことを楽しみにリハビリを頑張る方も多くおみえになるとのことです。



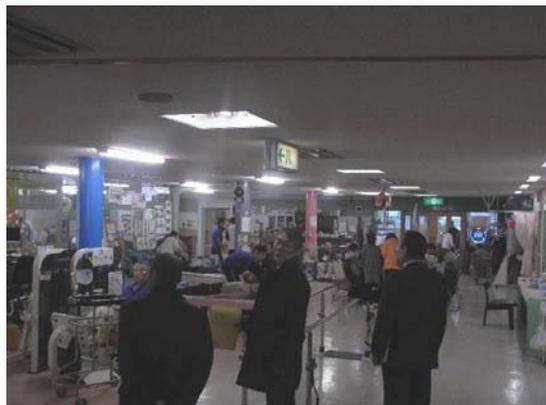
つまり、自分の稼いだお金で、自分の楽しみを得るという実社会の感覚を維持することと、リハビリをがんばる張り合いを持たせるという意味合いを「ユーメ」は持っていると思われます。

その他様々な利用者の目線に立った工夫やサービスで、利用者が進んで来所するようになっており、それがこの施設の高い利用率に現れております。「リハビリの森デイサービスセンター」は定員が1日42名ですが、ほぼ毎日が定員いっぱい状態で、雪の多い日でも35名が利用しているそうで利用回数による報酬制であるデイサービスにと

って利用率の高さは施設を維持するための生命線であり、また、看護師や理学療法士作業療法士など5種類の専門スタッフを配置することによる、人件費の増大をこの高い利用率でカバーしているようです。

また、利用率が高いということは、休みが少ないということであり、つまりリハビリを休まず続けているということでもあります。

このことは利用者の回復も早いことにもつながり、これは今回の視察のメンバーであるケアマネージャーの資格を持つ築瀬議員が見た最初の印象では介護度1の方が多いとの判断が、実は介護度3が平均であったという、プロの目すら欺く回復力にも現れており、介護度4の男性が、スタッフに軽く手を添えてもらうだけで、杖をつきながら歩いていく姿は驚愕以外の何物でもありませんでした。



また、自分のことはなるべく自分でするという習慣が利用者の中に出来ていることは、スタッフが利用者の世話などのルーティンに追われることが少なく、余裕を持って利用者に寄り添える利点もあります。

運営面に関しても既存の施設の再利用をするなど、経費の節約にも工夫をしており、運営が厳しいといわれる老人福祉施設も工夫しだいで利用者にも運営者にも恩恵のあるウインウインの関係が築けると感じました。

○今後の岡崎市へ活かせること

「ユーメ」などの通貨を使用することにより、利用者のやる気を出させる工夫などは、岡崎市の福祉センターでも大いに参考になると感じた。

また、(株)良創夢はもう1施設リハビリスポーツガーデンを運営しており、その施設はスポーツジムを再利用しているものであるが、この施設を開設するあたり、「リハビリの森デイサービスセンター」を創るときにはなかった県条例「福祉の町条例」により不必要な点字ブロックを道路から延々と敷き詰めたり、施設内に敷くことが義務付けられたり、採光量の関係でゴルフ練習場跡の屋根を取らなければならなくなったとのことである。



点字ブロックは目の不自由な方に必要ではあると思うが、広い敷地に延々とひき詰めることがはたして必要なのか、また、施設内では高齢者は足が上がらないので、点字の凹凸に躓いたりしてかえって危険であり、採光量に関しては、出来るだけ施設内を明るくする配慮ではあると思うが、屋根があることによる室内運動場の確保ができなくなり、屋根を撤去することによる、経費の増大などの問題が発生したと聞いており、条例もある程度、施設によりフレキシブルな対応が必要ではないかと感じた。

政務調査研究視察 報告書

報告者：築瀬 太

視 察 日	平成23年2月23日（水）
視 察 内 容	山口市「夢のみずうみ村デイサービスセンター」について
視 察 者	柴田 泉、近藤隆志、中根勝美、山崎憲伸、築瀬 太

・ 山口市について

山口市は人口約20万人、山口県の県庁所在地であり、山口県の政治と教育の中心になっています。

また、県庁所在地ではあるが、関門都市圏と広島都市圏に挟まれた谷間の地域ともいえ、主たる産業を有しておらず、市内中心部にある湯田温泉を中心として、萩、秋吉台、津和野などの観光の拠点となる観光都市でもあります。

・ 夢のみずうみ村デイサービスセンターについて

今回視察した「夢のみずうみ村山口デイサービスセンター」は、

- (1) 高齢者のための介護保険によるデイサービス
- (2) 身体障害者のためのデイサービス
- (3) 障害児のためのデイサービス

の3種類の通所施設が併設されており、利用者が自立した日常生活を営めるよう、施設での活動を通して、リハビリを行なう施設です。



・ 夢のみずうみ村の特徴

夢のみずうみ村デイサービスセンターでは在宅生活を継続していきたい、人生現役で過ごしていきたいと思っておられる方に元気で過ごしていただくためのたくさんの仕掛けがあります。

そして何より、利用者の皆さんがデイサービスセンターの時間を楽しんでいることが、自然とリハビリにつながっているようです。

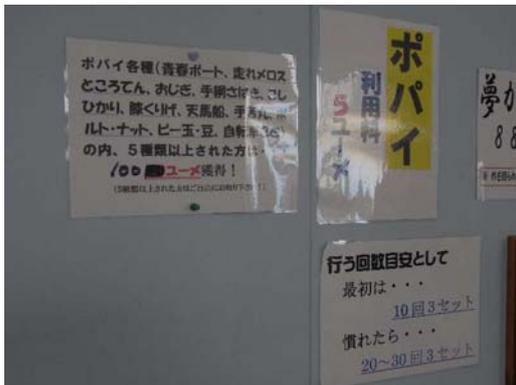
1. 夢のみずうみ村は、段差、坂、階段等日常で遭遇する可能性のあるバリアを意図的に配置した「バリアフリー」施設です。
2. 手すりはないが、一歩先に、さわるもの、すがるもの、寄りかかるものが必ず最低1つ以上ある環境になっています。



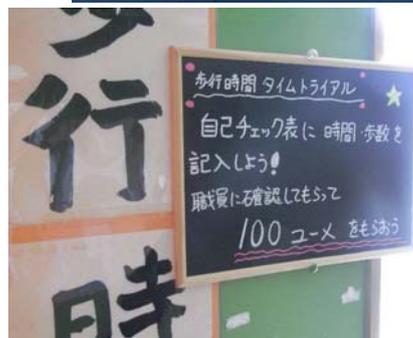


3. 夢のみずうみ村の昼食はバイキング形式で、利用者さんは自分でえらんだ食器に各自料理を盛り付け、トレイに乗せて席まで運び、下膳も各自行なっています。

4. その日の自分の行動を自分で決めます。大変もりだくさんのメニューからプログラムを選び、そのマグネットプレートでプログラムボードの時間枠にはり付けていきます。



5. 夢のみずうみ村には、村内通貨「ユーメ」があります。各リハビリプログラムに参加する時は、ユーメを支払い、カジノ(ルーレットやトランプ)やクイズ、見学者の案内や内職等でユーメを稼ぐことができます。施設内にはユーメを預けておく銀行もあります。



6. 覚醒プール(ウエイキングプール 特許第3524843号)を利用し、リハビリ、体力づくりをしています。

7. 夢のみずうみ村では、利用者さんが先生となって他の利用者さんを指導する教室がいくつかあります。例えば「片手料理教室」では、片手で料理をするコツを身につけた片マヒの師範・師範代がおられ、他の片マヒの利用者さんに片手でできる料理づくりのノウハウを教えています。



・ 利用者の意見・反応

我々の視察の案内を担当していただいた水先案内人はスタッフではなく、施設の利用者である廣重さんでした。そこでご本人の了解を得て、個人的な感想などを伺いました。

廣重さんは、腰部脊柱管狭窄症が悪化してきて、一般生活や日常動作に介護が必要になってきたため、介護保険の要介護Ⅱの認定を受け、以前は一般的なデイサービスに通っていたそうですが、男性が少なく話し相手もなく、ぼんやりと一日中過ごし、リハビリとはほど遠い施設であったため、ケアマネさんと相談し施設を変えました。



2番目に通ったデイでも、リハビリの時間が限られており、思うように施設での活動ができませんでした。そこでケアマネからも進められていた当所を利用し始めたが、ここではマシントレーニングにしても囲碁将棋、料理、陶芸、木工など趣味の活動にしても、プログラムを自由に選択でき、楽しみながら知らず知らずのうちにリハビリになっており、今では、要介護Ⅰと状態も改善し、ここに通うのがとても楽しみであるとのことでした。

○今後の岡崎市へ活かせること

まず驚いたことは、ここでは利用者さんがたいへんいきいきとしているということです。多くの介護保険における要介護、要支援者のためのデイサービスでみられる、表情を失った高齢者がボーッと佇んでいるといった姿は見られませんでした。

また定員110名という大規模なデイサービスセンターですが、利用者同士がそれぞれ助け合い、自律的に活動しているので、スタッフが走り回って利用者の世話をしているというような場面は見られませんでした。



介護保険制度では施設の人員基準があり、利用者数に対してどこの施設でも同じくらいの職員の配置になっていますが、ここでは、ほとんど施設での生活を利用者の意思により行っており、スタッフは利用者のお世話（直接的な介護）に振り回されることが無く、その分しっかりと利用者に向き合っている仕事をしているようです。

これからの介護施設のあり方を考えるのに、大きな指針となる施設であると感じました。

